

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2371600640
法人名	有限会社 アメニティホーム
事業所名	アメニティホーム塩釜
訪問調査日	平成19年12月12日
評価確定日	平成20年1月22日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月23日

【評価実施概要】

事業所番号	2371600640
法人名	有限会社 アメニティホーム
事業所名	アメニティホーム塩釜
所在地	名古屋市天白区元八事三丁目321番地 (電話) 052-861-2230

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年12月12日	評価確定日	平成20年1月22日

【情報提供票より】(平成19年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年4月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	18 人	常勤 16人, 非常勤 2人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	300 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年11月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1	9名	要介護2	4名			
要介護3	3名	要介護4	2名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	83 歳	最低	65 歳	最高	93 歳

協力医療機関名	ばん内科クリニック・林皮膚科・ひらばり眼科・元八事歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念である「生きがいのある快適な生活」を目指し、職員はいつもホーム内をこまめに清掃し、入居者の状態をよく観察し状況に臨機応変に対応することで、入居者が安心して快適な生活を過ごせるよう努めている。入居者の想いを大切に、職員主導ではなく、本人の持っている能力を活かしてもらえようそっと支援している。毎日、各ユニットで体操を行い、健康機能の維持向上に努めている。新聞をとっている方や、金銭を自分で管理している方もいる。散歩を日課としており、居室にこもりがちの方には声かけを工夫し、諦めず何度も繰り返すことで、日向ぼっこから、外に散歩に出るまでの意欲につながった。近隣の寺へ観音様のお参りをすることを楽しみにしている人もいる。家族との関係も大切にしており、要望や意見などについては、職員で話し合い運営に活かしていきたいと取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者は7月に就任したばかりで前回の評価結果の把握までには至っていない。理念について、申し送りや会議など折を見て職員に話し共有を図っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価について、外部から評価を受けることで、自分達では見えない部分を知ることができると捉えている。職員には自己評価票を手渡しで渡し、説明し、全職員が取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、今年の6月に第1回目を開催した。地域の方や家族の方、ホームからは役職者や職員が出席した。6カ月に1回の実施を予定している。地域に根付くことを一番に考え、まず地域に知ってもらうための活動について話し合った。ホームの行事として、5周年記念を行う時に、地域に案内を出したらどうかという意見があがり、現在調整している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	今回の家族アンケートの結果を真摯に受け止め、家族が疑問に思っていることには、ホームから積極的に取り組みについて伝えていきたいと考えている。病院受診後の状況についてこまめに報告するようにした。家族からの意見や要望は連絡帳に記載し職員は確認している。家族からいただいたクレームに対しては、記録に残し対応策を職員に説明している。職員の意識づけについては今後の課題としている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入しているが、回覧板や寄り合いなどはない。踊りや手品のボランティアの訪問があり、入居者も一緒に炭鉾節や民謡を楽しまれた。地区の運動会や学校の運動会の連絡をもらっている。近所の方とは、顔馴染みの関係ができており、日頃の挨拶を大切にしている。散歩で近所の公園に寄り、こども達の遊ぶ様子などを見ることもある。現在、幼稚園との交流をお願いしており、地域との交流は今後の課題として捉えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者の人格を一番に考え生きがいのある明るい快適な毎日を過ごして頂く生活の場とする」を理念に掲げている。生活の場であることを重視し、今までの家での生活をホームでも同じように過ごしてもらい、強制はしない。常に入居者の立場に立って考え、安全に安心して暮らせるよう見守りに力を入れている。		法改正があった時に地域密着型サービスについて職員に説明している。理念の意識づけは、管理者よりミーティングや折を見て話している。今後は、職員一人ひとりが地域密着型サービスの役割を理解し共通認識できるよう、理念の見直しについても検討されることを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者よりミーティングや連絡帳で徹底しており、折を見て話している。"見ていない" "知らない" を無くすよう確認した後、必ずサインをするようにしている。職員にとって不都合なことでも、入居者にとってはそれがいいこともあり、入居者を一番に考え、入居者に合った行動ができるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しているが、回覧板や寄り合いなどはない。地区の運動会や学校の運動会などの連絡はもらっている。踊りや手品のボランティアの訪問があり、入居者も一緒に炭釜節や民謡を楽しまれた。近所の方とは、顔馴染みの関係ができており、日頃の挨拶を大切にしている。散歩で近所の公園に寄り、こども達の遊ぶ様子などを見ることもある。現在、幼稚園との交流をお願いしており、地域との交流は今後の課題として捉えている。		地域から行事に声をかけてもらっている。散歩や外出時には地域の方との挨拶を大切に、顔馴染みの関係ができています。地域の方にホーム行事への招待を計画していることから、地域活動へ共に参加、協力するなど、少しずつ交流の幅を広げていくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は7月に就任したばかりで前回の評価結果の把握までには至っていない。理念について申し送りや会議など折を見て職員に話し共有を図っている。食事の献立については見直しを検討している。管理者は評価について、外部から評価を受けることで、自分達では見えない部分を知ることができると捉えている。職員には自己評価票を手渡しで渡し、説明し、全職員が取り組んだ。		今回の外部評価を活かして、職員と話し合い改善に取り組み、自己評価の意義についても、職員の段階に応じて説明し、理解した上で自己評価に取り組めるよう考えていることから、今後の取り組みに期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、今年の6月に第1回目を開催した。地域の方や家族の方、ホームからは役職者や職員が出席した。6カ月に1回の実施を予定している。地域に根付くことを一番に考え、まず地域に知ってもらうための活動について話し合った。ホームの行事として、5周年記念を行う時に、地域に案内を出したらどうかという意見があがり、現在調整している。</p>		<p>運営推進会議の場が、地域でのグループホーム理解にもつながり、交流や連携を深め、ホームのサービスの質の向上に活かすことができるよう、今後の取り組みに期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>業務上の分からないことや、困ったことについては、すぐに市に電話で相談している。行政には、施設長が行っており、ホームの現状について報告している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>今年の8月より担当職員が、毎月入居者の様子を手紙に記し家族に送付している。入居者の生活の様子を知ってもらおうと、ホーム内に行事写真を掲示し、家族が来訪した時に見てもらっており、入居者の状況を説明している。基本的に担当者が説明をしているが、家族の来訪が多い曜日には管理者が出動し対応できるよう配慮している。職員は名札をつけており、1階には職員の出勤札を掲示している。行事の際には家族にも声をかけ参加を呼びかけている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>今回の家族アンケートの結果を真摯に受け止め、家族が疑問に思っていることには、ホームから積極的に取り組みについて伝えていきたいと考えている。病院受診後の状況についてこまめに報告するようにした。家族からの意見や要望は連絡帳に記載し職員は確認している。家族からいただいたクレームに対しては、記録に残し対応策を職員に説明している。職員の意識づけについては今後の課題としている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>併設のデイサービスセンターへの異動はない。基本的に職員はユニット毎で固定となっているが、勉強のため、月に1人くらい異動し、マンネリ化しないようにしている。職員が離職する時には、職員が直接入居者に挨拶することもある。家族にはどのように報告するとよいかを現在検討している。新人職員が入った時には、管理者がつき実地指導を行っている。職員の離職が重なった時期があり、家族からも心配の声があがったが、現在は職員のチームワークもできつつあり、状態が安定してきている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	名古屋市介護サービス事業者連絡研究会（名介研）に3カ月に1回参加し、研修を受けている。また、同じ区内にあるグループホームが集まって、交流会や勉強会も3カ月に1回実施している。職員も参加している。10月より、内部の勉強会を始めており、月1回の実施を目指して取り組んでいる。基本的な介護技術についてや、12月には認知症についての勉強を予定している。勉強会の実施により、各階の職員のコミュニケーションが図られ、輪づくりに役立っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市介護サービス事業者連絡研究会（名介研）への参加や、同じ区内にあるグループホームとの交流会、勉強会に職員も参加している。近隣のグループホームを訪問する予定もある。		区内のグループホームとの交流会や勉強会には職員も参加しているが、多くの職員が交代で参加できるよう働きかけに期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込み時には、本人の自宅を訪問し、本人や家族と面談している。1階のデイサービスセンターを利用して、ホームに入居されるケースもある。入居が決定すると、体験入居を2～3日必ずお願いしており、実際にホームの様子を知ってもらい、雰囲気馴染んでもらえるよう努めている。病院から入居される場合は、病院を訪問し面談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であり、尊敬の念を忘れないように心がけている。戦争の話など職員の知らないことを教えてもらうことが多い。管理者は「何もできない人はいない。できないと決め付けずに、本人のできることを皆で見つけていこう」と職員に話し意識づけをしている。職員は入居者から諺や季節の料理、おやつなど慣わしについて学ぶことも多い。時には、入居者から職員は指導を受けたり、労いの言葉をかけてもらい励まされるなど、共に共感し支え合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員の感情で動くのではなく、入居者の立場になって考え、信頼してもらえるよう状況に応じて対応するよう努めている。フロアでの入居者の様子を把握できるよう、必ず職員1人は見守りにあたるよう徹底している。本人や家族から意向を聞き取り、日常のケアに活かしている。焦らず、根気よく話しを聞き、日々の中で出た言葉を逃さないようにしており、カンファレンスで話し合っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>長期目標を1年とし、短期目標を3~6カ月としている。7月より担当制としており、毎月行うモニタリングの結果をもとに、カンファレンスで話し合い、担当者が意見をまとめ、計画作成担当者が介護計画を作成している。家族に説明し意向を聞き、同意をいただいている。完成した介護計画は、入居者専用のボックスに入れ、職員は確認することになっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の生活の中で、適切に計画が実行されるよう、入居者毎に生活記録の様式の中に実施事項を載せている。それにより、職員は入居者のサービス内容を確認することができる。1時間毎に入居者の様子が把握できるようになっており、記録の書き方についても、その時の入居者の言葉や状態が分かるよう具体的に書くよう指導している。短期目標は3~6カ月としているが、毎月モニタリングを行い、変化があれば随時介護計画を変更し、入居者の現状に即した計画が作成されている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を10月にとり、看護師は職員として配置している。入居者が入院した場合には、情報提供をし、お見舞いに出かけ早期退院に向け支援している。本人と家族の状況の変化や要望には柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月2回協力医「ばん内科」の往診があり、24時間対応である。入居前からのかかりつけ病院の受診も可能であり、家族に付き添いをお願いしている。受診時には業務日誌のコピーを渡し、受診後家族から情報を得ている。看護師は週に1回健康管理にホームを訪れ、歯科医も月1～2回の往診治療で、口腔ケアなどをお願いしている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化、終末期、ターミナルに対する指針は今のところ作成していない。今までに事例はなく、現在は様子を見ながら段階的に方針を決め進めている。今後の変化に備えて、内科医の協力のもと家族とも繰り返し話し合い、全員で方針の共有をしていきたいと考えている。また、職員の教育、研修の必要性も感じており、合わせて進めていきたいと考えている。</p>		<p>現在は、様子を見ながら段階的に方針を決めすすめている。今後、家族や職員、協力医も交えて検討していきたいと考えている。早い段階から具体的な方針をたて、関係者と共有されることを期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の扱いについては入居時に説明し同意書をとっている。全職員が入居者のプライバシーを守る対応に心がけ入浴や排泄介助の際も誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。職員に「尊敬の念をもって」と話し、気になる行動を見かけたら、すぐに話し合っている。介護計画の説明や了解も人前では行わず、各部屋にて実施している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝ゆっくりしたい人は無理に起こさず、一人ひとりのペースに合わせ、ゆとりある生活が送れるよう支援している。たばこや酒類の希望はなく、お茶の時間は本人の好みに応じている。残存能力の把握や一人ひとりの持てる力を引き出すように努め、お誕生日会ではプレゼントを渡し、本人が主人公となって暮らせるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力にあわせ食材を切ったり、盛り付け、配膳、後片付けの手伝いを行っている。献立は栄養士にお願いしているが、来年度使用する食材を含め見直す予定である。味付けは日々薄味に努めている。食材購入は管理者が行い、入居者から特に要望は出ない。おやつ作りも行なっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	通常は1日おきに入浴しているが、希望があれば毎日でも対応している。時間帯は午後1時30分～4時頃で、特に朝とか夜の希望はない。必ずマンツーマンで対応し、拒まれる方には、声かけや対応を工夫し、足浴支援などを試みている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力に合わせ好きなこと、楽しめることを提案、工夫している。例えば、テレビで野球、相撲などの観戦、ベランダで盆栽の水やり、ボール遊び、塗り絵、切り絵、習字、スケッチ画なども行なわれ、作品が掲示されていた。男性で囲碁をされる方はとても強く職員も顔負けの実力である。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の公園、近隣の寺へ散歩に出かけ、隣の観音寺までは日課としている。車で喫茶店、寿司やピザなどのランチや外食にも出かけている。年2回ほど東山動物園や桜見物など遠出もしている。気分転換やストレスの発散、五感刺激にとっても役立っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は常に施錠している。1年ほど前に2件続いて事故があったための処置であり、それ以前は施錠してなかった。グループホームは建物の2～3階で、1階は同法人のデイサービスセンターがあり、施錠されていない。今後、時間帯を区切った対応が期待される。		入居者の安全を確保しつつ、外に出られない心理的不安、閉塞感、地域の人々にもたらず印象、影響を考え日中鍵をかけないですむ工夫を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は実施していない。ホームの各階に防災頭巾が常備され、職員も必要性を痛感しているため、災害に対する実践的な訓練が期待される。設備点検は定期的実施しており、マニュアルも整備されている。3階倉庫には水、乾パンを備蓄している。		消防署の協力を得て運営推進会議で話しをし、地域の人々へ回覧板をまわすなど呼びかけをして、共同訓練の実施を期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	麺類やどんぶり物も取り入れバラエティーに富んだ献立は栄養士が立て、毎日の摂取量は生活記録に詳しく記入している。定期的に体重測定も行い状態を把握している。水分は1日1,000～1,500mlほど摂取し、便秘薬を常時服用していた方が、薬が不要になった事例もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは広く、畳を埋め込んだ場所には、ゆったりしたソファが置かれている。床は段差がなく手すりも完備され、壁には季節に合った入居者手作りの作品が飾ってある。掃除が行き届いており、エレベーターホール脇の壁面の長椅子では日向ぼっこをしている方があり、多様に過ごせるよう工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、刃物などの危険物以外は持ち込み可能で、使い慣れた、たんすや家族写真、絵、各種作品、仏壇などが持ち込まれ、居心地よく過ごせる場となっている。畳の部屋もある。広いクローゼットが完備で衣類など収納でき便利である。冬場は湯たんぽを使用する方もある。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。